

平成28年1月

会員 各位

一般社団法人日本筋ジストロフィー協会
代表理事 貝谷 久宣

署名に協力をお願い
(八雲病院の医療機能の継続について)

新年 あけましておめでとうございます。本年が会員の皆様にとってよい年であるようにお祈り申し上げます。

さて、北海道八雲町にある国立病院機構八雲病院が、札幌市にある北海道医療センターへ医療機能の移転をすることはすでに会報「一日も早く」第289号でご存知と思います。この八雲病院は筋ジストロフィー患者にとって、気管切開をしない鼻マスク人工呼吸器による診療の我が国の拠点で、理学療法士、作業療法士、臨床工学士をはじめとする多職種 of 医療チームが一体になった優れた専門医療を実践しています。このため、長期の入院患者はもちろん、短期入院、定期検査などで全国から筋ジストロフィー患者が利用しています。

八雲病院の優れた専門診療機能については、別紙の「国立病院機構八雲病院の筋ジストロフィー専門診療機能の札幌移転（国立病院機構北海道医療センター敷地内）に関する要望書」をご覧ください、さらに詳細にご理解いただけます。

八雲病院のこうした専門医療診療機能を移転後も継続していただくよう、協会として厚生労働省と国立病院機構本部へ要望書を提出するにあたり、会員の皆様による署名を添付することを昨年末の理事会で決議いたしました。

つきましては、要望書をお読みいただき、厚生労働大臣、国立病院機構理事長あての署名用紙に署名、捺印いただき、同封の返信封筒にてご返送ください。取りまとめをして、協会役員、患者代表とともに、3月中にも要望書に会員の皆様の署名とともにお届けして、八雲病院の医療機能の継続を要望いたします。

署名用紙には、厚生労働大臣あてと、国立病院機構理事長あての2か所の署名、捺印をお願いします。点線で切り離さずにそのまま返信願います。

陳情を3月に行いますので、返送の締切は2月末とさせていただきます。

厚生労働大臣 塩崎 恭久殿

私は、国立病院機構病院八雲病院が鼻マスク人工呼吸器による診療拠点で、理学療法士、作業療法士、臨床工学技士はじめ多職種の医療チームが一体になった優れた専門医療を確保していることを患者として深く理解します。八雲病院が移転した後も、こうした医療機能が継続されるようお願いいたします。

住 所	氏 名	印

コメント

--

独立行政法人国立病院機構
理事長 桐野 高明殿

私は、国立病院機構病院八雲病院が鼻マスク人工呼吸器による診療拠点で、理学療法士、作業療法士、臨床工学技士はじめ多職種の医療チームが一体になった優れた専門医療を確保していることを患者として深く理解します。八雲病院が移転した後も、こうした医療機能が継続されるようお願いいたします。

住 所	氏 名	印

コメント

--